

2019 大会年度東京マラソン財団臨時理事会議事録

平成 30 年 12 月 6 日午前 10 時、新宿ファーストウエスト内会議室において、2019 大会年度東京マラソン財団臨時理事会を開催した。

理事総数 36 名

出席理事数 19 名

出席監事数 2 名

事務局は、理事総数 36 名中 19 名が出席し、定足数である半数を超えるため、適法に成立している旨を出席理事に報告し、議事に入った。

○ 第 1 号議案 東京マラソン参加料の改定について

大森事務局長は、前回理事会において報告事項としていた東京マラソン参加料の改定について、意見募集の結果を報告し、意見募集の結果や関連報道に対する反応、都議会の経過等を踏まえ、東京マラソン 2020 大会より税抜き 5,000 円値上げしたいと提案した。

これについて、金理事から、この金額に値上げすることについては基本的に賛成であるが、意見募集の反対意見について、金額が高いという意見の有無について質問があった。これに対して、大森事務局長は、値上げ額が高いということはなく、値上げをするのであれば内部努力をすべきとのご意見が多数あったと回答した。

また、小室理事より、都議会文教委員会の委員から今回の値上げを機に、より一層社会に貢献する取り組みを充実させていくことが重要との発言があり、このことに関し財団の考えを問う質問があった。これに対して、大森事務局長は、これまでもチャリティやボランティア、衣類リユースの活動支援等の様々な社会貢献活動を行っているところではあるが、他の大会にはない新たな視点での取り組みについても今後検討していきたいと回答した。

これを受けて小室理事より、社会貢献に関して、活動の充実や新たな視点での取り組みに加え、より多くの寄付がいただけるようスポーツレガシー事業の充実も図っていただきたい旨の発言があった。

最後に、山澤理事より、東京マラソンはバイスタンダーCPR 講習会を実施しており、東京マラソンの取り組みをきっかけに日本全国のマラソン大会でそういった取り組みが普及していることから、今後色々なところで伝えていただきたいとの意見があった。

本件については、出席理事全員の承認を得たため、可決成立した。

○ 第2号議案 エントリーカテゴリーの追加について

大森事務局長は、6月の理事会で提案のあった都民還元策について、8月の理事会及び9月の評議員会で都民先行エントリー枠の創設として説明し、その後 ONE TOKYO 会員を対象に意見募集を行い、その結果を踏まえて検討した結果、①東京都民を対象にした枠として1,000人を2020大会から、②連続落選者を対象にした枠として1,000～3,000人程度を2023大会から、③年代毎の基準タイムに応じた優先枠(実施時期及び定員未定)の3つを追加したい考えを示した。

これについて金理事より、①連続落選者枠について過去まで遡って10回連続で落選した人を対象に出来ないか、②地元先行枠について、定員1,000人に対して都民が何人くらいエントリーしているのか、③ボランティア経験者にも優先枠を設けてほしい、との質問・意見があった。これに対して早野事業担当局長は、①連続落選者枠については、プライバシーポリシーで過去のランナー情報を保持していない為、遡って抽選を実施することは出来ない、②地元先行枠については、都民のエントリーは15万人で、定員の数は色々ご意見はあると思うが、今回の値上げの件も含めて更なる都民のご理解・ご協力をいただきオリンピックに向けた盛り上げを図ることを目的として創設するものである、③ボランティア枠については今後検討していきたいと回答した。

次に、山澤理事より東京マラソンの最終的な国内・国外ランナーの比率について質問があり、これに対して早野事業担当局長は、非常に国際化が進んでおり、海外からは一般に加えて、RUN as ONE、チャリティ、ツアーなど多角的なエントリーがあり、最終的な国内外の比率についての議論は難しいと考えていると述べた。

次に、平塚理事より RunLink の登録記録について現時点では不明確との意見があり、これに対して酒井経営企画室長は、今回は3つのエントリーカテゴリーを創設することが趣旨であり、RunLink については基準や詳細が未定であり、ランナー登録制度として適正であれば活用していきたいと回答した。

本件については、出席理事全員の承認を得たため、可決成立した。

○ 報告事項

[東京マラソン2019の準備状況について]

早野事業担当局長より報告事項として、東京マラソン2019の準備状況(ランナーの状況、東京マラソン EXPO 2019、主要道路規制時間及び関門閉鎖時刻、大会運営(運営体制・データ)、東京マラソンファミリーラン2019、東京マラソンフレンドシップラン2019、主な日程及び2019大会での新たな取組み(車いすボーンスポイントの導入、フィニッシュ後帰路動線の見直し、小中学生を対象としたボランティア活動の新設、監視体制の強化、車両突入対策の強化、危機対応バイクの配備、刺又型案内看板の設置)について説明した。

[東京マラソン 2020 でのチャリティの主な変更点について]

早野事業担当局長より、2020 年大会に向けて寄付先団体数を公募により現行の 20 団体から 25 団体程度に拡充するほか、法人チャリティをアクティブチャリティに一本化するとともに、定員を現行の 300 人から 1,000 人程度に拡充し、クラウドファンディングについては募集期間を延長して寄付金を集める期間を確保することについて報告した。

[2019 大会年度オフィシャルイベント実施報告について]

早野事業担当局長より、2019 大会年度に実施した東京マラソン財団オフィシャルイベント（東京トライアルハーフマラソン 2018）の実施報告があった。また、次のオフィシャルイベントについては 2019 年 5 月に実施する予定だと報告した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、定款第 44 条第 2 項に基づき、出席した代表理事及び監事は、次に記名押印する。

平成 30 年 12 月 6 日

一般財団法人東京マラソン財団

代表理事 伊藤 静夫



代表理事 白石 弥生子



監 事 中村 倫治



監 事 曾根 真人

